

留 学 報 告 書

記入日:2017年4月1日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ピアスカレッジ 現地言語: Pierce College
留学期間	2016年9月～2017年3月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	-年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2017年3月25日
明治大学卒業予定年	2019年3月

留学費用項目	現地通貨 (\$)	円	備考
授業料	3,168	316,800 円	1 クォーター(3 ヶ月)
宿舍費	625	62,500 円	1 ヶ月(光熱費、食費込み)
食費	-	-円	ホームステイに含まれる
渡航旅費	2,000	200,000 円	往復
その他	100	10,000 円	生活雑貨、外出
合計	5,893	589,300 円	1 学期(3 ヶ月)あたりの費用

滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 OR <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)	
3)住居を探した方法:	
大学のホームステイ担当者の方と、書類のやり取りをして決まりました。	
4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
私のホストファミリーは英語を第一言語に使う方々でした。何をすることも英語でコミュニケーションをとる必要があるため、普段の生活の中で自分の英語力を養うことができると思います。	
現地情報	
1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?	
<input checked="" type="checkbox"/> 利用する機会が無かった <input type="checkbox"/> 利用した:	
2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
何かの事故が起きた場合、インターナショナルステューデントオフィスの方々や、ホストファミリーとすぐ連絡を取れるよう携帯電話の連絡先に登録していました。キャンパス内にはセキュリティオフィスもあります。	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?	
外務省海外安全ホームページに登録し、周辺の安全に関する情報を定期的に受け取っていました。	
4)パソコン, 携帯電話, インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。 (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)	
大学内、自宅、街中、どこも特に問題ありませんでした。	
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
現地で口座を開設し、日本の両親から送金してもらっていました。銀行によって、外国人登録しなくても開設できます。私が使用していたのはWELLSFARGOという銀行でした。口座を開設した際にdebitカードも作ってもらい、普段の買い物で使用していました。日本のクレジットカードを使う場合は、日本のクレジット会社に払う手数料が更にかかりますが、その心配をせずアメリカの値段そのままの買い物ことができました。	
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
基本的に生活必需品は何でも買えます。日本食はアジアマーケットに販売がありますが、中には売っていないものもありました。お土産に持って行くと、喜んでもらえると思います。	
7)授業料の支払方法, 支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った, 現地で開設した銀行のチェックで支払った, 渡航前に留学先大学から指示があった, 渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)	
各学期の初めに設定された期日までに、現地で開設した銀行のチェックで支払いをしていました。(debitカードの1日支払い限度額を超えてしまっていたため)	
卒業後の進路について	
留学を通して生じた, 今後の進路についての考えについて教えてください。	
アニメや日本のスナック菓子などの日本文化が、アメリカで沢山の人から愛されていました。将来は、日本文化の良さをもっと多くの国や人に伝えられる仕事に就きたいと思いました。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
30 単位	<input checked="" type="checkbox"/> (未定)単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Sociology	社会学入門
科目設置学部・研究科	-
履修期間	2016 秋学期
単位数	5
本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 4 回
担当教授	Jeniffer L. Maclin
授業内容	民族、ネイティブアメリカ、男女差別など、社会の様々な現象、文化、問題など、幅広い分野について学ぶ。
試験・課題など	各授業の前に、教授が指定した文献や映像を見て、リアクションペーパーを書いている課題がありました。授業はその内容について教授からの解説、生徒からの質問、2 人又は 3 人のグループディスカッションで進んでいきます。全部で 3 回オンライン上のクイズもあります。クイズは教科書の内容と授業の内容から構成されています。
感想を自由記入	現代アメリカ社会に深く関わる、様々な問題を学ぶことができました。教授はとても博識で、新しい知識を沢山吸収し、学びがいのある授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Fundamental of Public Speaking	パブリックスピーキング基礎
科目設置学部・研究科	Communication Studies
履修期間	2016 秋学期
単位数	5
本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 5 回
担当教授	Patrick Daugherty
授業内容	小サイズの講義室で授業を受けていました。学生の積極的な参加を大切にする教授で、ただ講義を聞いているだけではなく、身体と口を動かしながら学びます。スピーチの構成、話者の態度、聴衆の態度など、パブリックスピーキングに関する様々なことを学びます。
試験・課題など	7 分前後のスピーチが 3 回、その他に 5 分程度のスピーチ、6 人ほどのグループで協力するスピーチ、出されたお題に対してその場で考える即興スピーチなどもありました。試験は 1 学期間に全部で 3 回、教科書の内容から 30 問ほどで構成されていました。
感想を自由記入	私が受けていた講義の中で一番活気のあるクラスでした。どの学生も恥ずかしがることなく、積極的に自分をさらけ出していて、いい刺激を受けました。沢山の人の前で話すことが苦手の私にとって、ここで学んだことはどれも本当にためになり、人前で話すいい練習になりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
American Mosaic		アメリカンモザイク	
科目設置学部・研究科	Anthropology(人類学)		
履修期間	2016 秋学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 5 回		
担当教授	Mary L. Russel		
授業内容	人類学とは何かを、アメリカ社会にまつわる様々な現象や、歴史、問題を例に学んで生きます。また、なぜアメリカが様々な文化の混合社会となったのか、この多様性はどのように生じたのかも人類学者の視点から学びます。		
試験・課題など	授業は基本的にディスカッション形式で進んでいくため、教授が指定した文献や映像を見た上で授業に参加する必要があります。全 3 回の教科書の内容から構成されるインターネット上で受けるクイズがあります。学期の最後に今まで学んだことを踏まえ、自分が興味のあるアメリカ社会に関する問題についてのレポート課題があります。		
感想を自由記入	自分が知らないことだらけで、一番学ぶことが多かった授業でした。4人ほどのグループディスカッションをする時間がほとんどだったため、最初は英語面で苦労しました。メアリー先生は留学生の私を常に気遣ってくださり、わからないところを質問するといつでも優しく丁寧に解説してくれるとてもいい先生です。授業以外でも沢山人手伝ってくださりました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Communication		コミュニケーション学入門	
科目設置学部・研究科	Communication Studies		
履修期間	2016 冬学期		
単位数	5		
本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 5 回		
担当教授	Norm Komnick		
授業内容	パブリックスピーキングとは異なり、1対1のコミュニケーションに焦点を当てた授業です。コミュニケーション論理、どんな場面で衝突が起きるのか、言語・非言語コミュニケーションなど、対人間の円滑なコミュニケーションに必要なことについて学びます。		
試験・課題など	全 3 回、各 3 分前後のパブリックスピーチがあります。また、その場で考える 1 分の即興スピーチが全 3 回。学期の最後には、自分の興味のある雑誌の記事について、A4 用紙片側 1 枚のレポートが課されました。		
感想を自由記入	教授が使用する様々な例がどれも面白く、難しい内容も分かりやすく、簡単に理解することができました。即興スピーチはお題が書かれたカードを引き、その内容について自分の経験などを踏まえて 50 秒間話します。最初は緊張もあり、言葉に詰まる場面が何度もありましたが、自分の考えを短時間でまとめて人に伝える、いい練習になりました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Cultural Anthropology		文化人類学	
科目設置学部・研究科	Anthropology (人類学)		
履修期間	2016 冬学期		
単位数	5		

本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 5 回
担当教授	Mary L. Russel
授業内容	American Mosaic が人類学の入門編だとすると、この Cultural Anthropology はその応用編です。アメリカ社会だけではなく世界中の社会現象や民族差別や人種差別などの問題を、人類学者がどのような視点から調査し、考えているのかを学びます。多くの文献や映像を見て、4 人ほどの小さなグループで話し合った後、クラス全体で話し合います。
試験・課題など	各授業に備えて、教授が指定した文献や映像を見て、自分の意見をレポートにまとめてくる課題があります。また、自分の興味のある民族を 1 つ決め、その人たちにに関するブログを書く課題も全 6 回ありました。学期の最後に、ブログ課題の集大成として、その民族に関する 7 分程度のプレゼンテーションをしました。
感想を自由記入	1学期目に引き続き、多くのことを学べた授業でした。人類学的視点は、人類学だけではなく、自分の普段の生活をよりよいものにするためにも使えることがわかりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Customer Service Managemenet	カスタマーサービスマネジメント
科目設置学部・研究科	Management
履修期間	2016 冬学期
単位数	5
本学での単位認定状況	(未定)単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 85 分が 3 回
担当教授	Miebeth Bustillo-Booth
授業内容	顧客から信頼や評価を得るために、企業はどうすべきかに焦点を当てた授業です。様々な企業の例を使い、顧客を第一に考える会社や企業になるために、従業員が意識すべきこと、顧客のタイプ別問題解決方法などを学びました。板書は稀で、Poll や Kahoot など便利なインターネットソースを使って授業を進めていきます。
試験・課題など	教科書を中心に学びますが、授業内で読むのではなく、各自が授業までに読み進めてきて、内容理解テストを受けた上で講義に参加する必要があります。学期の最後に、1 つの小企業をモデルにしたカスタマーサービスマニュアルを仕上げ提出します。成績の大部分をこの課題が占めているため、これに向けてこつこつと、今まで学んだことも含めて作成していきます。
感想を自由記入	今までマネジメントの授業を受けたことがありませんでしたが、教授の分かりやすい講義のおかげで、知らなかったことを沢山学ぶことができました。最後の課題は大変でしたが、今まで学んだことが実際の企業でどのように役立つのか理解することができ、やりがいがありました。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2015年 1月～3月	入学に向けて準備
4月～7月	入学式 期末考査
8月～9月	夏休み
10月～12月	留学プログラム申込み 留学学内選考 冬休み
2016年 1月～3月	定期試験 春休み
4月～7月	新学期 留学学内選考結果発表 ビザ面接 留学関係書類提出 留学最終ガイダンス
8月～9月	夏季休業 アメリカ渡航 新入生ガイダンス
10月～12月	サンクスギビングブレイク 期末試験 冬休み
2017年 1月～3月	新学期 期末試験 日本帰国
4月～7月	帰国届けその他留学関係書類提出 留学報告書作成
8月～9月	夏休み インターンシップ
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	私の姉や従兄弟が留学を経験しており、感想を聞いているうちに、私も自然と興味を持つようになりました。入学した学部の中には沢山の協定校プログラムが用意されており、留学するいいチャンスだと思いました。これらのプログラムは、2年から申し込み可能で、多くの同学年の友達が申し込んでいたのも後押しになりました。とても漠然とした理由ですが、留学で様々な経験を得て、精神的に成長したという姉や従兄弟の話聞いて、自分も海外で生活する中で大きく成長したいと思ったことが留学をしようと決めた 1 番の理由です。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	渡航前にクレジットカードや海外送金、携帯電話についてとことん詳しく調べました。そのおかげで、海外送金では親への負担が一番少なく済み、クレジットカードでは買い物した際に日本への手数料がかからない方法、携帯電話はどこでも現地のインターネット回線を使うことができました。日本での手続きが必要なものもあるため、事前にどの方法がいいか考えてから渡航することを強くオススメします。また大学の図書館に、英語の日常会話を扱った本が沢山あるため、勉強して行くと現地で英語に慣れるまでの間、役に立つと思います。
この留学先を選んだ理由	1 番の理由は、留学生が多すぎない点です。同じワシントン市内のコミュニティカレッジに留学した人の話を聞くと、カレッジ内に留学生しかおらず、本物の英語を学ぶ機会が少ないと嘆いていました。その点、私の大学は、全体の数に対して留学生が少なく、カレッジのクラスのほとんどが現地学生で構成されています。ネイティブの英語を学ぶ機会を沢山得ることができました。また、自然が多く、街全体が落ち着いており、治安が良い点も大きな理由です。夜遅くまで図書館で勉強することができるため、勉強に集中するためにはとても良い環境だったと思います。
大学・学生の雰囲気	大学構内はとても綺麗で、セキュリティオフィスの係員が巡回しているため、とても安全です。他の4年生大学ほど規模が大きすぎず、どちらかというとこじんまりしているため、クラスの移動も全く大変ではありません。小さいからこそ友達とすれ違う機会も多く、沢山のひとと知り合うことができました。授業では意欲的な学生が多く、他の学生が意見を発表している間も、ほとんどの生徒が手を上げて発表の機会を待っていて、良い刺激を受けました。
寮の雰囲気	ホームステイだったため、そんなに頻りに寮に行く機会はありませんでした。そのため、何度か訪れた時の印象と、実際に寮に住む友達から聞いた話を書きたいと思います。寮は静かで落ち着いた雰囲気です。また勉強に集中できる良い環境だと思いました。テレビルームやスタディールームなども完備されており、友達と交流できる機会を沢山設けています。ただ、ルールが多く、キッチンを使用できる時間も限られているため、少し不自由な点も感じました。
交友関係	留学生にはためらうことなく積極的に話しかけることができました。ですが、留学当初、ネイティブスピーカーの学生に対して自分から話しかける勇気がなかなか出ず、仲の良い友人を作ることに苦労しました。現地での生活に慣れていくうちに、だんだんと会話のリズムもつかめようになってきて、積極的に話しかけるようになりました。最後には一緒に映画を観に行ったり、お昼ご飯を食べたり、身内で行われる誕生日パーティーに招待してもらえるほど仲の良いネイティブスピーカーの友人を作ることができました。
困ったこと、大変だったこと	何よりも英語でコミュニケーションをとることに苦労しました。私の受けていたクラスの教授の1人が、現地学生にとっても少し速く英語を話す方で、最初の頃は何を言っているのか全く聞き取ることが出来ませんでした。そこで、教授に許可を取った上で、携帯のボイスメモで録音し、授業の後に聞き直して授業の内容を理解しようと努めました。どうしてもわからない部分は、ホストファミリーに何と言っているのか聞いてもらい、ゆっくり繰り返してもらいました。
学習内容・勉強について	1 つのジャンルに絞られず、今まで受けたことのない多くの分野の授業を受けていました。パブリックスピーキング、人類学、社会学、マネジメント、コミュニケーション学など、一見関わりのないように思えますが、それぞれの授業で学んだことを他の授業で生かせる場面が何度もありました。例えば、パブリックスピーキングの授業で学んだプレゼンテーションの仕方は、人類学やコミュニケーション学のプレゼンテーションで役立ちました。人類学と社会学は、同じ現象について異なる視点から学んでいることがわかりました。

課題・試験について	課題の量は想像をはるかに超えるほど膨大でした。ほぼ毎日、全ての授業で課題がありました。授業はディスカッションが中心なため、各生徒が決められた文献や映像を見て、自分の意見を考えてきた上で参加する必要があるからです。大変でしたが、真剣に取り組んだ課題ほど興味深いディスカッションをおこなうことができたので、やりがいがありました。試験はテスト、レポート、プレゼンテーション、もしくはこれらの内 2 つの組み合わせが主でした。
大学外の活動について	合計 10 時間以上、地域や大学のボランティアに参加しました。雑草取り、教会で行われるハロウィンパーティーの手伝い、樹林などに参加しました。地域の人たちと交流することができた貴重な経験でした。また 3 日以上 of 休暇を利用して、アメリカ各地に旅行しました。ロサンゼルス、フロリダ、ニューヨーク、ラスベガスなどを訪れました。同じ国であるものの、異なる町や人の雰囲気を感じることができ楽しかったです。
留学を志す人へ 「これを知っておいて欲しい」と思うこと、アドバイス等	「やりたいことは何でもやってみよう」この心意気大切だと思います。海外留学では、友人作りも旅行も遊びも何もかも、待っているだけでは一生やってきません。また私自身が何となく感じたことですが、アメリカに住んでいる人々は他人のすることに対して無頓着、いい意味で気にしない人が多いです。この環境では自分がやってみたいことをやった者勝ちだと思います。どんどん新しいことにチャレンジしてみてください。きっと多くのものを得ることができると思います。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	授業	授業		
	授業	ジム	ジム	授業	授業		課題
午後	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	友人と出かける	
	課題	課題	課題	課題			課題
夕刻	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	友人と夕食を食べに行く		
夜	課題	課題	課題	課題		自宅で映画	自宅で映画